



坂元山からみた坂元宮山古墳遠望 1969年8月



8月の炎暑の中で坂元宮山古墳の発掘作業に従事する高校生たち



坂元宮山古墳第二主体出土 銀鍍貼金環頭大刀

目次

序 章 姫路市の考古を語る

第一章 旧石器時代から細石器時代へ

- 第一節 列島最古の人類
- 第二節 人類化石の研究
- 第三節 戦後考古学の最大の成果
- 第四節 氷河の時代
- 第五節 日本列島の姿とヒトの登場
- 第六節 旧石器時代石器の諸相
- 第七節 旧石器時代人の残したものの
- 第八節 遊動の暮らしと住まい
- 第九節 旧石器時代遺跡の発見
- 第十節 細石器文化の波及

第二章 縄文時代

- 第一節 縄文時代草創期の環境変化と土器の誕生
- 第二節 縄文の生業―狩猟・漁労・採集
- 第三節 新しい環境への適応の努力
- 第四節 縄文時代前期の村
- 第五節 縄文時代中期の発展
- 第六節 縄文時代後期の社会
- 第七節 縄文時代の終焉(晩期)

第三章 弥生時代

- 第一節 弥生時代の開始について
- 第二節 弥生文化の東進
- 第三節 弥生時代中期社会の展開
- 第四節 弥生時代後期社会
- 第五節 青銅の祭祀
- 第六節 戦争の世紀

第四章 前方後円墳時代

- 第一節 前方後円墳時代の始まり
- 第二節 大王墓の所在地の遷移
- 第三節 主要副葬品

第五章 市域と周辺の前方後円墳体制

- 第一節 初期の前方後円墳
- 第二節 体制の拡充期
- 第三節 体制の最盛期

第六章 坂元宮山古墳と古墳の変化

- 第一節 坂元宮山古墳の実態
- 第二節 中・西播磨の中小円(方)墳群
- 第三節 過渡的な古墳

第七章 後期古墳の展開

- 第一節 古墳の変質
- 第二節 後期前方後円墳の展開
- 第三節 群衆する小古墳
- 第四節 暮らしの変化

第八章 終末期古墳の展開

- 第一節 巨大な横穴式石室と家形石棺
- 第二節 終末期方墳の造営
- 第三節 古墳の終末

第九章 官衙と寺の時代

- 第一節 播磨の国府と国庁
- 第二節 播磨国府系瓦の展望
- 第三節 播磨国の山陽道駅家
- 第四節 播磨国分僧寺と国分尼寺

付 図(別袋)

- 一 御旅山三号墳主体部・兼田五号墳葺石検出状況写真
- 二 坂元宮山古墳第二主体出土
環頭大刀群・小札群写真
- 三 姫路市域と周辺の
前方後円墳時代遺跡分布図

『姫路市史第二巻下 本編 考古』発刊にあたって

姫路市史編集専門委員 加藤史郎

姫路市では、このたび表記の市史を発刊することになりました。この巻はいうまでもなく、二年前に発刊された資料編と対になるもので、二冊合わせて、姫路市域やその周辺の原始・古代の文化や歴史を研究する資料となります。この巻の最大の特徴は、何といても、旧石器時代から律令体制崩壊時までの数万年に及ぶ人々の悠久の歴史を、文字資料をほとんど用いずに、人間の残した遺構や遺物、言い換えると主として考古遺物によって歴史を語らせた点だといっても過言ではありません。このような試みは当市では初めてのことであり、その成果が期待されるところであります。

それでは、その成果の一端である各時代の内容を簡単に振り返ってみましょう。

旧石器時代では、初めて日本列島に住み着いた人間が飢えに苦しみながら、環境の激変に耐え抜き、生き抜くさまが見て取れます。

縄文時代も基本的には旧石器時代と大きく変化はありませんが、土器や弓矢などの使用により、定住生活が次第に定着してきます。

これでかれらの生活がより幅広く、より高度なものになります。今に縄文文化と呼ばれるような華麗な土器や装飾品を残しています。

しかし、自然に依存する経済では、所詮自然の猛威の前に、破たんし暮れる日々が多く、再生産が可能な農業への志向が急務であったようです。

時間じくして朝鮮半島から伝来した水稲耕作はまさに千天の慈雨のごとく、西日本一帯に受け入れられ、時を経ずして東日本にまで一気に伝播していったようです。弥生時代の開始です。

水稲耕作は各地に地方共同体と呼ばれる小集団を形成し、その指導者を生み出してきました。水稲耕作はどの作業課程を見ても多数による共同作業が不可欠であるし、それを指示・命令する指導者を必要としたからです。かれらは、次第に権力を掌握し、中には前方後円墳（古墳）の製作を許され、より強大な権力を持つ首長へと成長していった者もいたようです。各地に残る大小の前方後円墳は、その過程を語っています。古墳廃絶後これらの中には、仏教寺院や後には国分寺の創建、あるいは街道の整備に力を注ぎ、国家権力の一翼を担う地方勢力にまで成長する者もいたようです。

このように、第一巻下は、文字のない時代はいうまでもなく、文字があってもほとんど残されていない時代の歴史を通史としてまとめています。これに当たっては、考古学の研究方法が威力を発揮しています。ただ、相手がものいわぬ遺構や遺物だけに、独りよがりの結論にならないよう、研究者は絶えざる努力を積み重ねています。このことに思いをかたむけながら、本巻をお読みいただければ幸いです。

既刊案内

本編

第一巻 上 自然 (既刊)
第一巻 下 考古 (今回発刊)

第二巻 古代・中世

第三巻 近世1 (既刊)

第四巻 近世2 (既刊)

第五巻 上 近現代1 (既刊)

第五巻 下 近現代2 (既刊)

第六巻 近現代3

資料編

第七巻 上 自然 (既刊)

第七巻 下 考古 (既刊)

史料編

第八巻 古代・中世1 (既刊)

第九巻 中世2 (既刊)

第十巻 近世1 (既刊)

第十一巻 上 近世2 (既刊)

第十一巻 下 近世3 (既刊)

第十二巻 近現代1 (既刊)

第十三巻 上 近現代2 (既刊)

第十三巻 下 近現代3 (既刊)

別編

第十四巻 姫路城 (既刊)

第十五巻 上 民俗編 (既刊)

第十五巻 中 文化財編1 (既刊)

第十五巻 下 文化財編2 (既刊)

第十六巻 年表・索引

購読申込みについて

書名 姫路市史第一巻下 本編 考古

本の体裁 A5判 上製本 中性高質紙使用

装丁用織物表紙 貼箱入

頒価 五、〇〇〇円 送料五百円

(二部につき)

頒布方法 直接購入の場合

城内図書館 史料整理担当、

市政情報センター(市役所1階)へ

お越しく下さい。

郵送希望の場合

●現金書留・郵便為替

左記住所までご送金ください。

申込先 〒670-00012

姫路市本町68-258

(日本城郭研究センター内)

城内図書館 史料整理担当

TEL(079)289-4886

FAX(079)289-4891

発行当時のチラシにつき既刊と表示されていない巻もありますが、姫路市史は全巻(16巻23冊)発刊済です。